

多自然川づくり取り組み事例

| | | |
|---|--------------------------------------|---------|
| タイトル：石狩川上流における河道再生の取り組みについて | | |
| 水系/河川名：石狩川水系 石狩川 | 河川分類：大河川 | |
| 河川の流域面積：14330km ² | 整備計画流量：1800m ³ /s(W=1/20) | セグメント：1 |
| 事業：河川改修 | 事業開始年度：平成26年度 | |
| 目標設定：定性的 | 段階：D(実施・施工時) | |
| 課題・目的(主な)：流下能力の確保、礫河原、砂州・中州の保全・再生・創出、瀬・淵の保全・再生・創出 | | |
| 工法(主な)：掘削(高水敷)、掘削(低水路)、護岸整備 | | |
| 配慮事項(主な)：施工管理 | | |

背景・課題、目標設定

〈背景〉

河道改修や砂利採取が行われていた高度経済成長期以降、河道の固定化・河川敷高度利用のための低水路幅の狭小化により河床低下が進行した。河床低下が進行することにより、以下のような課題が挙げられる。

- ・瀬や淵が減少し、河川生物の生息環境が減少するため、生態系が単調になった
- ・河床砂礫の流出により岩盤が露出し、それに伴うサケ・サクラマス等の産卵適地が減少した

上記の課題を解決すべく、川が本来あるべき姿に戻すというコンセプトを掲げた上で、河床低下現象のより一層の解明を図るため模型実験や岩盤河床を含む河床変動計算を行い、効果を検証した。

取り組み内容・対策例

- ・川幅の狭いところや中州の土砂を掘削して川幅を広げ、掘削した土砂で岩盤露出箇所を埋める
- ・河岸際の露岩していた箇所には巨礫も敷設する



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

〈魚類の生息環境〉

- ・サケの産卵に適した条件である「河床材料50%粒径で80mm以下」を満たす
- ・濁水期において瀬や淵が発生し、50cm

〈今後の対応〉

対策工による効果を把握するため産卵床調査や河床材料の変動について継続的にモニタリングを実施し、効果に



着手前



着手後

備考

問い合わせ先

電話番号